

## はじめに

こどもを知らない、こどもが嫌いな私が園長先生に!?

私の子育てと「みなみの風こども園」のはじまりは、26年前にさかのぼります。

それまでこどもと接することのなかった私は、こどもというものを知らず、こどもは苦手な存在でした。

昔、伊武雅刀さんの曲で「私はこどもは嫌いだー」と叫ぶ曲がヒットしました。こどもの嫌な部分を延々と連呼する衝撃的な歌詞は秋元康さんのデビュー作だったそうです。今の若い人たちはそんな歌知らないだろうなと思っていたら、後に放送禁止となっていたそうです。

それ程衝撃的な内容だったんですね。ただタイトルは「こどもたちを責めないで」だったらしく（私は知りませんでした）、当時は歌詞に込められた本質のところは理解できず、ただ単に「こどもってそんなに嫌な生き物なんだ」という印象がインプットされてしまったのです。

そんな私が出産を機に「こども」という生き物に出会ったのが27年前。漠然と、こどもって苦手だな……と思っていた自分も、お腹の中に新しい命が誕生し、気がつけばいろいろなところで「かわいい」こどもたちの姿が目に入ってくるようになりました。

純粋な瞳、かわいい笑顔、うれしいときも嫌なときも素直に感情

を表し、本能のおもむくまま欲求をぶつけ、全身全霊で今を生きている！ 我が子や周りのこどもたちが一生懸命生きる姿や日々成長する姿が、私には衝撃的で圧倒的な存在となっていきました。

こどもが苦手と思い込んでいた私は、短大の進学時にも母から勧められた保育科には全く興味がありませんでしたが、出産、育児をきっかけに日に日にこどもの虜になり、同時にそれまでこどもというものを軽視していた自分を恥じました。そうして私はもっとももっとこどものことを知りたい、こどもや子育てについて勉強したい、それを仕事にしたいと強く思い始めたのです。

そんな矢先に、たまたま手に取った行政の広報誌に掲載されていた「保育サービス講座開講 受講生募集」という文字が目に残りました。「働いていない女性が、子育てをしながら働いている女性を支援する」という、仕事と家庭の両立支援を目的に開催される講座でした。刺激を求めていた私は「子育てが勉強できる」「仕事につながる」と思いすぐに申し込んだのです。それまで行政の広報誌など見ることもなかったのに、偶然見つけたそんな小さな記事から人生が、運命が変わるとその時は想像すらしていませんでした。

これが私と「みなみの風こども園」の原点です。

こどもと2人でずっと家にこもっている生活から一転、3か月に渡る講座が終了する頃には、勉強した仲間たちと「子育て」「保

育」を自分たちの手で事業として立ち上げるという、夢にも思っていなかった人生がスタートしました。

そこから始まる私のみなみの風人生。3人のこどもを出産し子育てをする母として、妻として、会社の代表として、そして園長を経てみなみの風の3つの園の統括園長として、こどもたちや保護者の方々、共に学び働く仲間と共に過ごした私の26年でしたが、決して順風満帆ではありませんでした。

離婚、シングルマザー、母の死、家庭内暴力、不登校、うつ、不安定な経営、再婚……など、数々の出会いと別れ、喜びと失意、笑いと涙、感動と失墜を繰り返してきた波瀾万丈の人生……。これだけで1冊の本が書けるかなと思うほど、本当にいろいろありました。

辛いこともたくさん経験しましたが、子育ても終わり、園の運営、経営も軌道に乗った今となっては、その一つ一つが自分の人生の糧になっていたんだなと改めて実感します。

そんな波瀾万丈人生の大きな転機は3つ。

プライベートでは、離婚を決意！ 3人のこどもを育てるシングルマザーへ。そして新たなパートナーとの再婚、新しい家族の形。そして3つめの転機は、2013年みなみの風に大きく影響を及ぼした人財育成サポートの野口先生との出会いです。まさにみなみの風の救世主！ コンサルタントの野口先生や津川さんとの出会いで、私自身もみなみの風も大きく変わりました。

この本では、ずっとみなみの風が大切にしてきたこと、そして大きく変化したことをお伝えし、その結果「幼児期のこども」が、どんな大人（どんな園）と関わるかで、その子の人生が大きく変わる！ということについて、みなみの風が自信を持って皆さんにお話ししたいと思います。拙い文章ですが、どうぞよろしくお願いたします。

みなみの風こども園

みなみの風ファミリー保育園

みなみの風花と緑の保育園

統括園長 高橋由紀